

会 議 録

会 議 の 名 称	第 2 回 枚方市総合計画審議会 第 2 部会
開 催 日 時	平成 26 年 10 月 9 日 (木) 17 時 57 分から 20 時 10 分まで
開 催 場 所	市役所別館 4 階 特別会議室
出 席 者	部会長：吉川委員 副部会長：後閑委員 委員：伊東委員、榮野委員、角野委員、高井委員、谷本委員、富岡委員 審議会会長：新川委員
欠 席 者	嶋田委員、橋本委員
案 件 名	1. 第 5 次総合計画基本構想（素案）について 2. 今後の進め方について 3. その他
提出された資料等の 名 称	1. 基本構想（素案）に対する意見一覧 2. 第 5 次総合計画基本構想（素案）修正案 3. 総合計画策定スケジュール（案） 参考資料 1 第 4 回総合計画審議会及び第 1 回第 2 部会会議録 参考資料 2 「枚方市転入・転出に関するアンケート」の調査結果 参考資料 3 枚方市の社会動態（転入・転出）に関する資料
決 定 事 項	1. 基本構想（素案）に対する意見一覧について確認した。 2. 第 5 次総合計画基本構想（素案）修正案の内容について事務局から説明を受けた。 3. 今後の計画策定のスケジュールを確認した。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	1 人
所 管 部 署 (事 務 局)	政策企画部 企画課

審 議 内 容

吉川部会長

お待たせ致しました。それでは、ただいまより、第2回枚方市総合計画審議会の第2部会を開催いたします。委員の皆様、お揃いということで、まだ定刻には3分程度時間がありますが、はじめさせていただきますと思います。

本日は、8月28日に第1回の部会を開催させていただきました。それに引き続きまして、第5次総合計画基本構想の素案について審議をさせていただきたいと考えております。なお、新川会長は第1部会の部会長ということなのですが、審議会の総合調整を図っていただく必要がありますので、オブザーバーという形で本日はご参加いただけるという予定になっております。

前回8月28日は、時間が非常に押した中で、各委員からのご意見を順番にお聞かせいただいたんですが、本日はできるだけ、委員間の討議を中心に議事を進めさせていただきたいと思います。2時間、8時頃を終了の目処に進めていきたいと思いますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。それでは時間等の都合もありますので、早速ではございますが、事務局から会議に先立っての様々な事務的な進捗状況等、ご報告をお願いしたいと思います。

事務局

本日の出席委員は10名中8名でございまして、「枚方市附属機関条例」に基づきまして、この部会が成立していることを報告申し上げます。

続きまして、お手元の資料を確認させていただきたいと思います。

(手元の資料の確認)

それでは、説明させていただきます。

(資料1「基本構想(素案)に対する意見一覧」の説明)

(参考資料1「第4回総合計画審議会及び第1回第2部会会議録」の説明)

(参考資料2「枚方市転入・転出に関するアンケート」の調査結果」の説明)

(参考資料3「枚方市の社会動態(転入・転出)に関する資料」の説明)

吉川部会長

今、ご説明いただきました資料、特に、参考資料2・3について、委員の皆様の方から何かご質問、意見等があればお願いしたいと思います。

吉川部会長

あまり質問がないようなので確認の意味で。参考資料2の方なのですが、転入・転出先が大阪市であるということはよくわかったのですが、枚方市側の方で禁野本町というのが両方とも出ているんですが、何か特別な理由があるんですか。

事務局

禁野本町の方なんですけれども、国家公務員宿舎、官舎の建て替えがこの時期にありまして、それで入れ替えということで、このあたりの住所地への転居が多くなっているものと考えております。

吉川部会長

要するに時期的な問題により突出しているということで理解していいわけですね。

事務局

はい。

吉川部会長

それでは、また詳しく目を通していただいて、何かありましたら事務局の方にお問い合わせいただくということで。

先ほども私の方から申し上げましたように、本日は委員間の討議を主に進めさせていただくということでございますので、そちらの方に時間を割きたいと思います。資料については、今回はお目通しをいただいておりますので、お問い合わせいただくということにさせていただきます。

それでは続きまして、本日の案件になっております第5次総合計画基本構想(素案)に移りたいと思います。本日は事務局の方から、前回お伺いした意見を踏まえて整理した素

	<p>案の修正案について、資料2という形で提示していただいています。基本構想（素案）に対する意見については、時間は短かったみたいですが、第2部会の方がよくお考えいただき積極的に意見が出されていたと思います。今回は、第1部会、第2部会両方の意見を踏まえて、整理された修正案を提出していただいておりますので、まずは事務局の方から説明を受けたいと思います。</p> <p>本日は、この資料のうち、前回の第2部会の方でも問題というか意見がかなり出てきました「めざすまちの姿」とか、あるいは「5つの基本目標」という後半の部分を中心に特に議論を進めてはどうかと考えております。ですので、事務局の方からの資料の説明についても、そのあたりを中心に説明いただければと考えておりますので、よろしくお願ひできますでしょうか。</p> <p>ちょっと部会長の勝手な形で進めていますが、前回の部会の動向も含めまして、このような形で進めさせていただきたいと思います。よろしいですか。ありがとうございます。それでは、皆様からご了承をいただけたということでそのように進めさせていただきたいと思います。では、事務局の方から説明をお願いいたします。</p> <p>事務局 （資料2「第5次総合計画基本構想（素案）修正案」の説明）</p>
吉川部会長	<p>ただ今、ご説明いただきました素案の修正案について、本日は部会における委員間の議論の活発化をお願いしたいと考えております。特に、今、事務局の方からご説明いただいたように10ページ以降の基本構想（素案）を中心にぜひ活発なご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>今、大体6時30分くらいですので、1時間20分程度の時間が取れると思います。どなたでも結構ですから、基本構想の素案についてご意見を頂戴できればと思っております。私自身もいろいろあるのですが、部会長からはあまり申し上げない方がいいのではないかと考えておりますので、ひとつよろしくお願ひいたします。</p>
伊東委員	<p>この間気づいたのですが、5つの基本目標の3番目の「子どもが光り輝き、文化が薫るまちづくり」で、「子ども」が主語になっていて、「文化」が入り込んでいるのがちょっと疑問と言いますか、どうせなら、上に「生きがいを持って」と書かれていて、たぶん、この資料の中に年齢を重ねても生きがいを持つことも書かれていたと思うので、子どもに焦点を当てるのはいいんですけども、そうなるのとそれ以外の人たちはどうするのということになってしまっていて、2番目の「生きがいを持って暮らせる」という人たちとはどういうつながりがあるのか、分散してしまっている感じがするので、「子どもをはじめ誰もが光り輝く」とか、上の「健やかに、生きがいを持って暮らせる」の方が、文章というか、分野としてはまとまるのではないかと思いました。</p>
吉川部会長	<p>他の委員はいかがでしょうか。今、伊東委員からは、もちろん子どもに光が当たるのはいいですが、子どもだけが光り輝くものではないだろうし、文化はエイジレスと言いますか、赤子から老人まで関わりがあるというご指摘だと思いますがいかがでしょうか。</p>
後閑副部会長	<p>確かに、「子ども」とここの文章がつながらないかなという感じはするんですね。この「文化が薫る」というところで、この5つの基本目標というのは、これまでずっと挙げられていたのですが、この資料をいただいたときに、中核市のところで、福祉ブランドにつながるというキャッチフレーズの中で、健康医療都市とか教育文化都市という言葉が使われているので、そういう言葉をもう少しこの中に入れていけるようなことになってくるのもいいのかなと思うのと、それからもう一つは、目標について、まちづくりが目標なのか、「安全で利便性の高いまち」を作っていくことを目標にしてまちづくりをしていくということだと思うので、目標の挙げ方としては、「安全で、利便性の高いまち」、それから「健やかに、生きがいを持って暮らせるまち」、「子どもが光り輝き、文化が香るまち」、「人々が集い、活力があふれるまち」というふうに目標はそこにあって、そこに到達するために、市民団体、事業者、行政が一体となって、まちづくりという活動をしていきますという表</p>

	現じゃないかなと思ったんですけども。
吉川部会長	はい。これは「意 2-16」なので、前回、たぶん角野先生がご指摘されて、「文化を育む」が「文化が薫る」に変わっただけなのですが、角野先生、何かご意見ございませんか。
角野委員	私がイメージしていたのは、恐らく、ここで出てくるのは、学校教育、生涯教育、文化財のことを合わせて市民文化みたいなものの部局が浮かぶのかなぁとっていたんです。
吉川部会長	教育委員会ですか。
角野委員	教育委員会だけじゃなくて、市民文化部もね。 本日、資料を見たときに、「文化が薫る」になると、ちょっと上へ離れてしまうという感じはしますので、それだったら、やっぱり文化は育む方がいいかなと思いました。 だから、そういう違和感がふと表れるのは、ちょっと元に戻す方がはっきりするのかなという気はしました。薫りに代わるものがなかなか出にくいけれども、学校教育、生涯教育、文化財、これが基本的には市民文化になるのだろうと思います。
後閑副部会長	先生、そうすると、基本目標の3番目のところで表したいのは、学校教育、市民教育、それから市民の文化、そういうものをしっかりと育成して、充実したまちというイメージにすることですよね。
角野委員	そうです。文化を育むのであれば、「子どもが」にすると子どもたちが文化を育んでいくということになるので、ちょっとイメージがわかりにくかったの。
後閑副部会長	子どもが光り輝くということはいいことだと思うんですけども、子どもだけではないとおっしゃっていたということで、この表現が市民全体が光り輝いてということになるのかなって。光り輝くという言葉、表現でいいのかどうかということがありますが。
角野委員	例えば、生涯学習という概念が子どもも含むのは当然ですけども、それでイメージできるかどうかなんですよね。生涯学習イコール昔の社会教育のイメージになっちゃうと子どもが置いてきぼりになる。だから、生涯教育というイメージで子どもが入っていることがわかればね。
富岡委員	この基本目標の文言についてどういうことが適切なのかということが一番あれなんですけれども、枚方市として、来てほしい、あるいはターゲットとしているところへずばっと入るようなキーワードになってくると、もしかすると5つの基本目標よりもちょっと広がるのかもしれない。例えば、子ども、要は子育て世代にやっぱり流入してきてほしいということであれば、やはりそこに訴求するような、そこにぐっと入ってくるような文言を入れないといけないと思うんですよね。どこらへんが落としどころなのかなということもちょっとありますが、やっぱり、「文化が薫る」と言われてもなかなかイメージしにくい。あるいは、「子どもが光り輝く」と言ってもどんな子が光り輝くことなのかなということがどうもイメージしにくいというところが残る。ただ、基本目標というのは、その後の展開のことになると、ぼんやりとした方がいいというのはたしかにあるんですけど、そのあたりがどれくらいのものかなとは思う。
後閑副部会長	さっきの転入・転出を見ると、住み続けてもらえるとしたらやっぱり若い子育ての世代の人たちが入ってきて、少なくとも定住してくれればいいなっていうことですね。
富岡委員	今回の参考資料のところですけど、転入の理由のところでも割と利便性、あるいは仕事の都合でということがすごくあって、利便性が高いということは魅力ではあるんですけど、じゃあ都市として、あるいはまちとして魅力かどうか、そこが魅力で来たいかどうか、

	<p>来ているのかどうかというと、それに係るような項目は割と低い。まちのイメージが良いとか、そういうところ、あるいは生まれ育ったまちで愛着があるというのも割と低い項目にあがっている気がしますね。都市ブランド、あるいはまちの魅力になると、もう少し理由の下の方の項目が、ぐっと膨らんでくるようなことになってくるかなと。当然、利便性が高いというのは魅力ですけれども。</p>
吉川部会長	<p>利便性が高ければ大阪市に行ってしまうというのも頷ける話で、利便性を求める市民が多いということは、結局は大阪市の方が利便性は高いという話になりますね。</p>
富岡委員	<p>だから、利便性もありますが、比較をしたとき、選ぶならやはりこっちのまちがいいよということで、住みたいまちランキングじゃないですけども、そういうランキングの上位に利便性だけではない項目として選ばれるようなところをぐっと高めていったり、あるいはそこへアピールしていけるようなことは必要かなと。</p>
後閑副部会長	<p>参考資料2のところの「これからの枚方市に期待するところ」で、書いているのはたぶん子育て世代の人なんだろうと思いますが、子育てをしやすいということなどが比較的出ているかなと。</p>
吉川部会長	<p>たぶん、ここは文章の問題というか、どこを対象にするかということが問題だと思いますが、委員の皆さんのご意見というのは、子どもがターゲットであるのは事実だけど、もっと広い世代にも目配りをしていることが見えてくるような文言であるということと、ある種それが文化という用語であれば、それによって枚方が選ばれるような都市でありたいということが、この目標として表現されたらいいと理解するのですが、よろしゅうございますか。</p> <p>具体的に文言まで考えていると、時間がいくらあっても足りないという気もしますし、第1部会との調整等もあると思いますので、ちょっとコメントは事務局にご検討いただければと思います。取っ掛かりに、伊東委員の方からお話をうかがいましたが、とりあえず、そういうことでよろしゅうございますか。</p> <p>特に、前回、榮野委員の方から、方法論、あるいは行政としての立場ということで指摘いただいているんですが、この修正案のところ、このあたりのご意見をいただければと思うのですが。</p>
榮野委員	<p>前に意見させていただいて、修正いただきありがとうございます。私が思ったような形になっていると思います。</p> <p>とりあえず、次のステップで問題提起的にちょっと言わせていただきたいのは、市民参加でどんどん魅力あるまちをつくるというのは総合計画の目標なので、この佇まいでいいんですけども、ちょっと出過ぎちゃって、逆に、後ろの横串として効率的な市政運営などがちょっと入っているのですが、背景の分析のところ、いろいろと入れていただいている方針、市民社会への影響というのは、前は行政だけ書いていたのもっと広く書いてほしいということで入れていただいているのですが、やはりそれに伴う行政改革的な考え方というのは、ちょっと薄くなっちゃったのかなと思ひまして。</p> <p>もどってしまいますが、例えば8ページの「計画の基本的な考え方」に、もう少し少子高齢化の対応として、一般的に言われていますのは、大阪府は他府県よりは都市部ですけど、やはり過疎地域なんかに行くとコミュニティが維持できないということで、例えば学校の統廃合であったり、公民館の統廃合であったり、そういう課題も出てくるでしょうし、あるいは人口構成自体も、子どもが少なくなってきた高齢者の方が増えてくるということで、高齢者向けのサービスを補充しないといけないとか、そういう行政課題と、ある程度の方向性をどこかに入れていただけたらバランスが取れるんじゃないかなと思います。</p>
吉川部会長	<p>今ご指摘の8ページのところの傾向と、「計画の基本的な考え方」の3番目のところですかね。人事、財政、行政改革って、当たり前と言えば当たり前ですが、ここをもうちょ</p>

	<p>っと的確に表現されるとよいということでしょうか。</p>
榮野委員	<p>ここは前になかったところですよ。</p>
吉川部会長	<p>はい。</p>
榮野委員	<p>逆に、その上の「社会情勢の変化に対応できる柔軟性」のところに、社会情勢の流れとはこういうものだよということをやっと入れたらもう少し見えやすくなるのかなと。入れ方自体は私もちょっと、どうしたらいいとは言いにくいのですが。</p>
吉川部会長	<p>榮野委員の方からご指摘がありました。他の委員の方々はいかがでしょうか。</p>
榮野委員	<p>あまり行政改革が計画の目標になっちゃうと本末転倒という気がしますので、ただ、背景としてはそういう課題があるという、何かうまい入れ方を事務局の方で工夫していただけたらと思います。</p>
吉川部会長	<p>他にご意見ありませんでしょうか。特に、第2部会として意見を申し上げて、変わったところを中心にご確認いただいてご意見いただければと思いますが。なかなか全般的にということが難しければ、網掛けがしてあったり、「意 2-〇〇」というふうに書いてあったりしますので、そこを中心と考えていけば、この前の議論につながると思います。</p>
富岡委員	<p>この文言の中に入るような具体的な内容ではないのかもしれないですが、例えば、基本構想の最初に、実現主体で市民・市民団体などが前面に出てきて、あとは、14 ページに「市民等がまちづくりに参加しやすい環境づくりの推進」ということが出てきていますが、それと行政がどう関わっていくのか、あるいはどういう体制で進めていくのかということに関わるとは思うんです。もし、本当に市民参加のまちづくりをしていこうということになると、市民のまちづくりに対する意識はだいぶ盛んにはなってきましたが、日本の場合はまだまだこれからだと思っているんです。</p> <p>そうなるってくと、やはり子どもときの教育の問題と関わってきて、そういう教育になっていないということがあると思うんです。いわゆる、まちというのは市民が作るんだというような意識、あるいは、そういうことをきちんと伝えていくということは、日本は遅れているのかなと思います。だから、市民参加ということを謳っていても、実は本来の、あるいは意図したところでのまちづくり、市民参加にはなっていないということがあると思います。それこそ、やっぱり欧米などは、市民のまちというものに対する意識が非常に高いのではないかなと思ひまして、例えば、そういうところで、教育都市というものを謳っていく、あるいは市民参加ということを謳っていく、それなりの仕組みというか、本当にやっっていこうと思うと同時に見据えていかなければいけないと思うんですね。</p> <p>これは、今思いついたことではあります。例えば、それらをやっっていくにあたっては、そういうものを組み立てていくために、幼・保・小ぐらいの教育と連動して、大学などの機関と連携したようなカリキュラムを組めないかということも出てくると思いますし、こういう名称がいいのかどうかはわかりませんが、枚方メソッドみたいな形で、要は、市民のまちづくり、あるいは教育というものも含めて、それは、子どもときからそういう中で育っていくことによって、実は、まちに対する愛着感も高まっていく。当然、まちに対する意識が高まった人たちがずっと育って行って、いろんな理由で転出してまた帰りたいたいと思ってくる。そういう市民の意識、あるいは市民のまちに対する愛着感を醸成していく。実はそういうことが、入ってきた人にとっても非常に優しい、あるいはあらゆる人々にやさしいということにつながるような。</p> <p>ちょっとぼんやりとしていて申し訳ないんですが、市民参画と謳って、じゃあ、それは本当に実効力を持って、より効果を持ってやっっていくための仕組みというものを本気になって考えていく。しかも、それを教育とかいろいろなところと連動した具体的な仕組みを持ってやっっていくということが、これからのまちづくりでは必要なかなあということ</p>

吉川部会長	<p>思っています。すみません、なんか感想みたいになってしまいました。</p> <p>前回、榮野委員の方から、行政体がやるのと市民参加というのは、もうちょっときちっと分けといた方がいいだろうと言われたことで、こう書かれたと思うんです。それで、市民参加という論点になると、高井委員から NPO 関係のことでご意見いただいているんですけど、例えば今、富岡先生がおっしゃった話と連動するのですが、このへんのところで何かご意見はございますでしょうか。14 ページの上の方の網のかかっているところ、特にアンダーラインの「若手を中心とした新たな担い手の育成」をどうしたらいいのかという感じですけど。</p>
高井委員	<p>難しいですね。実際、なかなか進んでないのが現状だということがありまして。ちょっと話がそれるかもしれないですけども、だいた NPO という言葉が一人歩きしているようなところがあって、NPO という言葉ひとつとっても、NPO 法人と NPO をこの中でももう少し使い分けていく必要があるかなと感じています。</p> <p>今回、たぶん、第 1 部会の方で意見があったようですが、「意 1-16」で宮原委員から出ている意見ですけども、市民、事業者、行政以外を NPO で括るのはどうかということで今回のような表現になったと思っていたのですが、基本構想の市民団体（地域コミュニティ、NPO など）の表現ひとつとってみても、市民団体がまさに NPO で、NPO をやっている方からすると言葉が重複しているように感じていまして、例えば、ここが NPO 法人というような表現になっていれば、まあ、すっと落ちるかなあと思っていたんですが。</p> <p>そういう NPO とか、いろいろなところでまだ言葉が定着していないかなと思ったり、捉え方がちょっとずれていたりするのかなと思ったりします。そういった中で、この 4 番のところでは言いますと NPO に対してのイメージ自体もちょっとずれがあったりするのかなと思っています。</p>
吉川部会長	<p>その用語はきちっと定義をしておかないといけないと思うのですが、僕が思うには、オーガニゼーションというのは法人なので、NPO 法人って法人・法人という話になるんじゃないかなと思ってしまいますので。特定非営利活動法人が NPO ですよね。</p>
高井委員	<p>NPO という言葉の中に、市民活動団体、ボランティア団体も含めて NPO というひと括り。</p>
吉川部会長	<p>そういう括りがあるんですね。</p>
高井委員	<p>NPO 法人もその中に入ります。</p>
後閑副部会長	<p>オーガニゼーションだから。</p>
高井委員	<p>そうですね。</p> <p>表現的には法人だと思っている団体は NPO 法人っていうんだったらいいんですけど、NPO という括りでいけば、市民活動団体、ボランティア団体も含めて NPO 活動をやっていますよという括りになりますので、4 番の中でいえば、ボランティア団体も NPO なんですよ。</p>
吉川部会長	<p>例えば、我々の関係の中では、まちづくり協議会というのがあって、市の担当部局や市民も入ってきて、我々専門家も入るというものですが、それはどうなんですかね。行政当局も入ってくるというのは、NPO とは言いにくい部分があるのではと思うのですが。</p>
高井委員	<p>そうですね。行政ではないという括りはありますね。</p>
吉川部会長	<p>その中でも法人格をとって NPO になっているまちづくり協議会があったりしますし、国でも、委員会とは別ですが協議会という団体を国が主導してつくっている場合もありますので。ちょっとそのへんのところの用語をきちっと定めていただきたい。私自身も NPO と</p>

後閑副部長	<p>NPO 法人とはどう違うのかははっきり知らなかったんですけども、今ご説明いただいてよくわかりました。</p> <p>地域コミュニティというのは、地域の自治会ですか。そういうことをここでは地域コミュニティと捉えているのでしょうか。よくわからない。いろいろなコミュニティがあるかなと思うのですけれども、そういうふうに見ていくと難しいですね。ボランティア団体も NPO だし。</p>
吉川部長	<p>総合計画もまだ基本構想なので、ほわっとしている方がいいのかもしれないですね。あまり定義、定義と縛ってしまうのもどうかと。</p>
高井委員	<p>使われ方がいろいろとありますよ。</p>
後閑副部長	<p>そうですね。</p>
高井委員	<p>メディアでニュース発表などがあるときも、NPO 法人が事件を起こした場合、NPO 法人が事件を起こしましたというような報道をされるんですけど、株式会社が事件を起こしても株式会社が事件を起こしたとはならない。細かいことを言えば、そういう捉えられ方がまだまだあったり、ひと括りになっていたり、まだまだ上手な使い分けがされていないところはあると思います。</p>
角野委員	<p>ちょっといいですか。例えば、10 ページのまちづくりの図がありますよね。</p> <p>これは、市民も市民団体も事業者も行政もともにまちづくりを進めていきたいと思いますということなんですが、このレベルではこれでいいのか、ちょっとイメージがわからなくて。例えば、市民と市民団体があって、その中に地域コミュニティなどがありますよね。それに対して、行政とか事業者とか NPO とかがともに関わり合いながら、まちをつくっていくとイメージしていたのです。</p> <p>なぜそんなことを思ったかという、例えば、これは世田谷区の例ですが、地域教育協議会という組織がすごく発達しているんですよ。これは何かというと、拠点はたまたま小学校にしているのですが、東京の方は、防災の観点から行政が地域コミュニティを結構進めているので、そうしたときに、拠点は学校ですが、その校区に住んでいる人々がいて、そこへ NPO が入って、行政が入る。そして、学校が場所を出しているということで、要はみんなで助かろうという話。そのときに独居老人も何もかも全部抱え込むと。毎年のように年 2 回くらい各小学校区で開いていました。もう古い話とは思いますが。市民やら地域コミュニティを真ん中において、行政やら民間企業も絡んでいましたかね。民間企業も当然その中にあるわけですから。</p> <p>そういう形を取るの、市民と市民団体っていうのが一緒に括りになることがいいかどうかは僕もちょっとわからない。事業者なら事業者の CSR というのがあるだろうし、そういう観点で書いてもらわないと、お互いに手を横につないでも、どうつないでいいかわからないというイメージがあるんですよ。それぞれ、NPO の役割とか、事業者の役割とかがあって、持っている機能はそれぞれ違うと思うんですよ。でも、それは市民や地域コミュニティに対してどう貢献していくかというような感じでちょっと捉えていたので。市民と市民団体が一緒に括りに入るかどうか。ここはちょっとわからないですけど、そんなふうに思いました。</p>
吉川部長	<p>今のご意見、どうでしょうか。市民と市民団体について。</p>
富岡委員	<p>やっぱり、僕は今言われたようなニュアンスがあるかなと思っていて、要は、「市民」といったときに、それぞれがイメージされることがあると思うんですよ。例えば、本当に市民一人ひとりというイメージでのことなのか、それこそ市民団体になると自治会に加入している人とか。そういう、それぞれの市民というイメージ、あるいは市民と市民団体</p>

	<p>ということが本当に何か言葉分けした方がいいのか、あるいは分けなくてもいいのか。どちらの方がいいのか。</p>
角野委員	<p>きつとね、全員市民なんですよ。</p>
富岡委員	<p>うん、それはそうです。</p>
角野委員	<p>NPOとか事業者とか行政とか、それぞれ特別の組織ですから、そこはそれぞれの機能を持っていますよね。だからその機能を出し合うということだろうと思うんです。家に帰ったら、NPOの人もみんな市民ですから。24時間NPOじゃないですからね。ちょっと私もわからないです。</p>
吉川部会長	<p>では、もちろん先ほどの話で、NPO法人そのものは、要するに法人格を持ったNPOで、プロフィットさえ出さなければいろいろな事業をされるわけですよ。それは別にコミュニティに関わらない事業であっても事業としてあり得るわけですので、その場合は、ある意味では事業者ですよ。そういうところもあると思うので、ここの括りについて、市民が個としてなかなか活動できないけれども、ある種の手助けとして団体に入れば市民が活動できるという意味では、市民よりのところに入っているでもいいんだけど、場合によっては、いろいろな事業をされるということもあり得る。ここも、微妙な位置づけという話になると思うんですけれども。</p>
富岡委員	<p>そういう意味では、先ほど言われたようにある意味広い意味でいうと、みなさん市民ですよ。要はここで書かれている市民っていう枠組みをぼんと入れるのではなくて、機能、要は自治体とか地域コミュニティとか、あるいはNPOとか、あるときは事業者だと、そういう括りの部分を前面に出して行って、全体として「市民によるまちづくりというのはこういうところが核になってやっていきます」というようなことなんですかね。</p>
角野委員	<p>結局、市民を参画させていくという機能をどう活かすかということですよ。そうしたら、例えば、高齢社会で60歳以上あるいは団塊の世代以上の人たちにどう参加してただけるか。彼らはものすごい頭脳と経験、英知を持っていますから。彼らのそういうものをどう吸い上げていくか、市民団体に入らないと吸い上げられないということではないですよ。団塊の世代を敵に回すようなことはできませんから、全部引っ張り出すということで、市民がいて、みんな持っている機能で、参画していくというイメージなのかなとちょっと思っていました。</p> <p>手をつなぐにしても、どう手をつないでいいかわかりませんからね。だから団塊の世代の人は、例えば、学校ではものすごく活躍しています。商社を退職した人は数か国語をしゃべれますからね。そういう意味では、そういった人たちの思いを引き出していくという、それは行政だったり、NPOだったり。事業者はどうなのかわかりませんが、事業者であれば持っている機能を提供するんですかね。まあ、そんなにこだわっていませんが、とりあえず基本構想の最初の垂れ幕みたいなものなので。</p>
吉川部会長	<p>はい、わかりました。まだまだ時間は余裕がございます。</p> <p>特に先ほど、僕もうっかりしていたのですが、伊東委員のご指摘の5つの基本目標のちょうど3つ目のところ、「子どもが光り輝き、文化が薫るまちづくり」ですけれども、ページをめくっていただくと、実は12ページに個々の具体的な内容の説明があって、たぶん基本構想をまとめるときにはこういう文章が上がってくるとは思うのですが、ちょっと中身を見ていただいて、どうあるべきかということをご議論いただければと思います。この中には、ワークショップの方で世代に関わらずというようなご意見があって、それがどういう形で反映されているのかということもあるとは思うのですが。</p>
伊東委員	<p>ここは、子どもに焦点を当てるのか、教育文化の話をするのかどっちかにした方がいい</p>

	<p>かと。文化と分けてもいいと思います。基本目標について5つにこだわらないといけないのであれば、まとまっているのかなという感じはしますけれども、6つあってもいいのであれば、子どものコーナーと教育文化、生涯教育というのをもう一つ作ってもいいんじゃないかな。世代に関わらずという意見を参考にするということですけども、説明文の3番目は「あらゆる」ですけども、他の3つは全部子どもという単語があるので、ちょっと何でまとまっているのかなという感じがします。</p>
吉川部会長	<p>事務局としてはどうですか。6つ目は困りますか。これも、学校教育と生涯教育と上手く文章が繋がればとは思いますが。</p>
角野委員	<p>大人も子どもも光り輝くというイメージなんですよ。</p>
吉川部会長	<p>そうですね。これは特に、角野先生のご指摘の、我々のような団塊世代、我々って言ったら怒られるかもわかりませんが、やっぱり、僕も輝いていたいなどは思いますのでね。</p>
伊東委員	<p>高齢者のニーズをターゲットにした方がいいってさっきご意見があったのですが、その割に高齢者というターゲットの言葉があまり出ていない感じで可哀想みたいですけれども。なんか、ニーズだけになっているのが寂しいなど。それこそ人数が少ないところに焦点を当ててどうするというようなクレームなどが出そうではないかなと。</p>
吉川部会長	<p>それは、先ほど榮野委員のご指摘の少子高齢化の方の高齢に対する具体的施策という話のところですね。</p>
榮野委員	<p>上の方には盛り込んでありますね。ここで、世代をターゲットにせず全世代に通じた目標にされているのかなという気はします。ただ、おっしゃったように、子どもが少ないからということではなくて、逆に、都市間競争をやっているんでここを売りにするというのであれば、あえて5つを6つに分けて、子どもにターゲットを当てた項目もあればという気はします。</p>
吉川部会長	<p>6つ目として、まあ子どもはわかるんですけど、高齢で、これがある種、標語になるかというとなかなか難しいところがあると思うので。先ほどの結論みたいなものもあると思うんですけど、ちょっとそのへんは第1部会と合わせて、もう1度調整をつけていただければと思うんですけども。</p>
谷本委員	<p>1つ上の「健やかに、生きがいを持って暮らせるまちづくり」とあるんですけども、私の単純なイメージですが、「生きがい」という言葉には結構広い世代というか、高齢者というか、そういうものも含まれるイメージがあるような気がしています。逆に「健やか」というところは、世代を超えて「健康」というイメージなので、上の文章もそういう意味では、ちょっと混在しているようなイメージがある。どちらかという、上は「健やか」、「健康」というような言葉を主体において、子どもとか高齢者も含めて、文化、スポーツも含めて「生きがい」というところがこの3つ目の文言にした方が何となく納まりがつくような気がします。</p> <p>たぶん、ワークショップの意見で「高齢者が生きがいを」というのがあるので2つ目にあるのかと。ちょっとそこを整理したら今の議論は整理がつくのではないかなという感じがしましたね。</p>
吉川部会長	<p>そうですね。2つ目と3つ目がうまく仕分けされればというご意見ですが、私もそのようには思います。</p>
富岡委員	<p>それがうまく作れたらいいのかなと思うのと、後は、項目を分けなきゃいけないので、それぞれでというふうに思うんですけど。</p>

	<p>ただ、子どものところと高齢者のところが結びつかないかということそんなことはないわけで、例えば、幼稚園、保育園と高齢者施設が一体となった整備というのがありますし、やはり子どもと高齢者の方が一緒に生きること輝くということも当然あるんですね。子どもの視点に立ってみたら、そういう方々と関わる、それこそ、知恵という話がありました。あるいは子育て世代からしてみたら、非常に恩恵を被ることがいっぱいあると思うんですね。あるいは医療のところ、実はこの辺のことは複合していて、それぞれのところでいい部分、恩恵を被ることとか、そういう部分もいっぱいあると思うんですね。</p> <p>何か項目立てすると、子どもというのがぼんとしていて、何か「子ども子ども」という感じになっていますけれども、実はそうじゃない表現の仕方があるのではないかな。それよりも、各世代が5つの基本目標ならそれでいいんですが、各世代が「ここに住むとこんな暮らしのイメージなんだな」というようにイメージできるような組み立て方、あるいは表現の仕方というのがあるのではないかなと思うんですね。</p> <p>それぞれ、「医療」、「子ども」というふうに項目立てするとその項目になってしましますが、そうじゃなくて、それぞれ来てほしい世代、あるいはそこで暮らしてほしい人たちがイメージできるような、「あっ、ここに行くとなんな暮らしができるんだな」、例えば、子育て世代の人に「こんな暮らしができるんだな」、もうちょっとって落ち着いてくると「こんな暮らしができるんだな」、子どもたちも「こんな学びができるんだな」というような表現の仕方、あるいは括り方がないのかなと思ったりもするんですけど。</p>
後閑副部長	<p>5つの基本目標の中で、安全とか、それから活力が集まる、活力があるところと自然はすごくはっきりと要素としてあると思うんですね。2つ目の「健やかに、生きがい」というのはどういうことかなと。「健やか」というところを見ると、いつまでも元気で健康でいられるようなさまざまなものがある。もう1つ「子どもが光り輝き、文化が薫る」というのは、先ほどからの話で言えば、教育だとか、文化だとか、そういうものに育まれた、生涯でいろんなことを学ぶことができるような環境があるんだというふうにイメージできる言葉として出てくると、割とすっきりするのかと。子どもが光り輝きというのは、それはよくわかるんだけど、そういうふうにみんなが光り輝くのは、どういうことで光り輝くのかという要素がこの中に入ってくるとわかりやすいんじゃないかなと。</p>
富岡委員	<p>今おっしゃっていただいたことと関連して、ある意味、端的に言ってしまうと、子どもが光り輝くのは大人たちが光り輝いていれば輝くはずですよ。やっぱりそういう環境でそういう大人たちに囲まれて、あるいは、そういう大人たちに育まれていくというのが、子どもにとっては一番大事なことだと思うので。そういうところは何かあるんじゃないかなと思うんですね。</p> <p>文化というのは大事なんですけども、当然、高齢者の方も輝いてくださり、大人の方も輝いていく、そういう中で子どもたちが光り輝いていく。周りの大人からいろいろなものを受け継いでいく。そういうことが子どもにとってはとても大切なことではないかなとは思っています。</p>
吉川部会長	<p>難しいですね。</p>
富岡委員	<p>はい、難しいですね。</p>
吉川部会長	<p>実は、先ほど柴野委員がおっしゃったように、選択をしてもらわないといけないとなると、富岡先生がおっしゃったように、イメージが先行するようにより具体的にという話にならざるを得ないのかもわからないですよ。そうすると具体的にすればするほど、何かターゲットが狭くなってきて、先ほども「子ども」ということに集中しがちになってきたという話もあるので。</p>
富岡委員	<p>だから、こういう書き方がいいのかどうか分からないですけども、例えば、「健康」という枠組みであらゆる世代に対するコメントが書いてある。あるいは「教育」というこ</p>

	<p>とに関してもあらゆる世代に対するコメント、項目がある。あるいは、「活力」ということであれば、中心が活力というところで高齢者から子どもまでの1つのイメージがあったり、「子ども」だけを取り上げるのではなくて、それぞれのところに高齢者もあり、子どももあり、健康に対しても子どもも大人も高齢者も関わってくるわけですから、そういう項目の書き方ができれば。</p>
吉川部会長	<p>そうすると、基本目標をブレイクダウンした内容を説明しているのが11ページ、12ページと後ろに続いていますけれども、そこに、富岡先生がおっしゃったようなエイジレスなコンセプトなどが、上手く入っていればいいということですかね。</p>
富岡委員	<p>そんなことも1つあるのかなと、今お話を聞いていて思ったんです。</p> <p>今、この5つの基本目標というのであればそれでいいですが、例えば、5つの項目で、3つ目の「子どもが光り輝き」の子どもを抜いてしまうなら抜いてしまうでもいいんですけども、「安全で、利便性の高いまちづくり」と言うんだったら、その中で高齢者にとっての安全性と利便性、子どもにとっての安全性と利便性があるって、「健やかに、生きがいを持って暮らせるまちづくり」という項目について、11ページ以降に書いていただいているような、高齢者から子どもまでがイメージできるような、各世代がイメージできるような表現もあるのかなと。それがいいかどうかはちょっとわからないですけど。そうなると、例えば、子どもとか、高齢者がということではない感じかなとは思ったんですけど。</p>
吉川部会長	<p>先ほども後閑先生とちょっとお話をしていたんですが、ここは私自身の分野なんで、最近、ユニバーサルデザインとよく言うわけですよ。ユニバーサルデザインというのは、実はバリアフリーデザインとは違って、別にそのハンディキャップがある人にとって優しいまちづくりをするわけではなくて、いろいろなあらゆる階層、属性を持った人にとっても住みやすい、使いやすいまちになればいいと。そういう意味でいくと、今おっしゃっているようなことは、ある意味でユニバーサルみたいな話になるわけです。ただ、具体的に言いますと、例えば、アメリカのある先生がユニバーサルデザインって定義されていてね、8つくらい項目が上がっているのですが、これをユニバーサルと言われると、日本人としては違和感が出てくるということもありましてね。</p> <p>今、富岡先生にご提示いただいたことで、ちょっと腑に落ちるところが出てきたのかなという気がしますね。あえて、子どもと言わなくて、ただ、「子ども」を見据えてるというのもあっていいだろうし、先ほど、伊東委員のご指摘のとおり、3番目の項目のブレイクダウンしたところには「子ども」のことがかなりピックアップされているわけですから、改めて子どもが光り輝くと文言で言わなくてもいいわけですよ。ちょっと、そのへんのところも上手く考えて、これを二次元の世界に作れば、この5つの中で各世代の枠組みというか、地図といいますか、そのようなものが出てくるかなとは思いますがね。</p>
伊東委員	<p>転入・転出の理由で「仕事」というのがあると思いますし、知り合いのお母さんたちに聞いたら「主人の転勤で」というふうに聞いた人が結構多くて、実家があるからというように、要するに仕方なしで来ているところがあると思うんですよ。だから、これだけすごい議論をしているんですけど、これを知って入ってくる人は少ないと思うんですよ。だから、住んだときに裏切らないような方向性であってほしいというのが感想なんです、意見ではなくて。</p> <p>やっぱり、待機児童ゼロという言葉に関しても、ちょっと疑うべきところがあって、知り合いのお母さんが「どこがゼロやねん」みたいな感じで怒っているんですよ。だから、良いことを書くのはいいですけども、やっぱり、引っ越してきたときにマイナスなことを与えないような行政のお仕事を期待したいのと、それから、これはすごくいいものを作っていると思うんですが、結局、住んだ人が目にするのかなと。目にしなくてもそういう改革ができるとしたら、住んでいる人から発信していくものかなという気がしました。</p>

吉川部会長	<p>そうすると、もう一つ手前のキャッチフレーズの「めざすまちの姿」というのが、これも、前回の我々の部会で、よそから来て住みたいと思うのか、住んでいる人が住み続けたと思うか、そういう意見があって書かれたんですけども。今回も「大阪で住むんやったら、ひらかた」というのはかなり選択的で、「大阪の中では」というのはもう一つ忸怩たる思いもあるんですが、「住むんやったら、ひらかた」というところとたぶん関係してくると思うんですが、もう一つ上のレベルでこのコンセプトについてご議論いただければと思います。</p> <p>5つの基本目標の中に「安全で」と書いてあるのに、また、その上にも「安全で」というのがあって、なんか繰り返しになるような気がして仕方がないんですけどね。「あらゆる人にやさしいまち」というのは、先ほど、ある意味でのユニバーサルな社会といいますか、ユニバーサルデザインといいますか、あるいはユニバーサルなまちづくりというものにはつながる話かなと。安全というのはユニバーサルの中に含まれる話だと思うんです。</p>
伊東委員	<p>住みたいとなると結局どこも似たりよったりになったり、郷に入れば郷に従えみたいになってしまったりすると思うんですけど、来てメリットがあるというところがあればいいと思います。例えば、住民税が安いとか還付してくれるみたいな、そういう還元じゃないですけど、住んで良かった、そんなにいいところなんだと、差別化で何かあるかなというか。私の希望みたいな感じですけど、住民税が軽くなったら「来たらいいで」と言えますけど、そういうのが何かあればいいのではないかな。「枚方ってすごいよ」と言えることとか。</p>
榮野委員	<p>キャッチフレーズとして、つかみはいいと思うんですけど、今みたいな議論で、他から人をとってることが枚方の目標というのはちょっと違和感があるかなと。今おっしゃったように、住民税を安くしたら、まちが良くなるかと言えば、それはちょっとまた違う話じゃないかなという気がします。</p> <p>だから、「住むんやったら、ひらかた」を「めざすまちの姿」とするのは私はちょっと違うような感じがしています。せめて「大阪で」というのはやめていただけたらと。大阪の中で取り合いをしても全体が下がってしまうことになってしまうので。</p>
後閑副部会長	<p>「あっ、こういうところだったらいいな」という、良い枚方をイメージできるような文言があるといいですね。</p>
谷本委員	<p>「住むんやったら」は、大阪弁がベースになっているところがちょっと和らげていて、ましかなという気はします。そういう、「住みたい」と強く言うのではないところが、あらゆる人にやさしいという、そのやさしさがちょっと出ているかなというイメージです。</p> <p>私もみなさんと一緒に「大阪で」というのはいらないと思うのと、「安全で」というのもなくして、「あらゆる人にやさしいまち ひらかた ～住むんやったら、ひらかた～」ぐらいでいいのかなという気がちょっとします。それと、なぜ「ひらかた」を2つとも平仮名にしたのかなと。「あらゆる人にやさしいまち ひらかた」の「ひらかた」を漢字にして「まいかた」と読まれないようにして、下はわかりやすく平仮名とか。なんかそういうのがいいかなとちょっと思いました。</p>
吉川部会長	<p>「大阪で」は取った方がいいですよ。大阪で取り合いするのではなくて、少なくとも関西でとか。</p>
榮野委員	<p>参考で申し上げますと、地方は人口が減っているということで、今、国全体で東京一極集中を是正しようということで動き出していますけれども、大阪はちょうど中途半端な位置で、逆に日本全体を考えると、大阪から地方へ出してあげなきゃいけない話はあるんです。一方で、それ以上に大阪は東京に取られているという現実がある。我々としては、今、東京から地方に流れをつくる一環で大阪にも来ていただくというような、全体としてはそういう形です。</p>

吉川部会長	<p>私の大学は典型的な大阪の大学ですが、研究室の卒業生は東京で勤める方が断然多いので、結局取られていっているといえます。</p> <p>あと 15 分程度ございますが、ちょっと議論ができかねているところも含めて、ご指摘いただければと思います。</p>
谷本委員	<p>全く違うことですが、13 ページの「人々が集い、活力があふれるまちづくり」というところで、「中心市街地の活性化などにより」という文章があるんですけども、前回の資料では、確かこのあたりの文章の中に枚方市駅前についてちょっとふれられていた部分もあったと思うんですけど、それが割愛されているような感じでして、枚方市駅前だけに限らず、中心市街地となり得る部分をさす意味ではなくてもいいと思うんですけど、やっぱり、枚方市の総合計画を作る中で、まちの顔というか、外から見るときに、枚方という枚方市駅前というのは、非常に重要じゃないかなと私は感じていまして、そういう意味で言うと、この構想の中でも、ここが枚方の顔として活性化していくという意味合いをやっぱり入れていただいた方が私的にはいいのではないかと思いましたが、ここの文章を「枚方市駅前をはじめ、他のその他の地域」でもいいんですけども、何かそういう一言が欲しいなという気がします。なんか、顔が見えなくなってしまうという気がしました。</p>
吉川部会長	<p>イメージとして、総合計画で具体的な地域を取り上げるというのは、例えば、現実に私は都市計画審議会とか景観審議会などで責任ある立場をやっていると、上位の計画で縛られるのめかなわないなというところもなきにしもあらずで、特に、総合計画というのは、この間のご説明であったように、ある種かなりのロングスパンで考えられている。今、現実の問題として、枚方市駅前がターゲットになっているのですが、ひょっとしたら5年、10年経てば、違う話になっている可能性もあるので、できる限り具体的な場所が見えない形の方がいいのかなと。</p> <p>実は、中心市街地って、今、谷本委員は枚方市駅前をイメージされているのかもしれませんが、例えば、楠葉の人にとっては樟葉駅前が中心市街地というイメージになってくるかもしれませんし、果たしてその活性化というのが、商業的な活性化なのか、居住としての活性化なのか、あるいは行政の中心地としての活性化なのかということでも変わってくるので、このワークショップでは「枚方市駅周辺の活性化」という項目があがっていますが、ブレイクダウンしたときであれば枚方市駅前が上がってきてもいいのかなとは思いますが、あまり、具体的な場所とか施策レベルの議論まではやらない方がいいのかなという感じがしているのですが、いかがでしょうか。</p>
谷本委員	<p>すみません。おっしゃるとおりで、本当はもう少しブレイクダウンした部分で出すべきだと私も本当のところは思っていますが、それをあえて発言させていただいたということとして。当然、楠葉とか、例えば長尾の方とかが中心になる可能性もあったりとか、これから道路とかが変わってきたり、いろんな事情で変わるとお思いますので、それは十分にわかります。無理にとは思いませんけれども、市の名前がついている駅なので、やっぱり、そこは入れてもいいかなと思いました。</p>
吉川部会長	<p>ここ、「市内大学の知的資源を」となっていると、市内大学って、うちの大学か、あそこの大学かという話になってきかねませんのでね。</p>
吉川部会長	<p>何でも結構でございます。まだ、しばらく時間がありますのでご意見ちょうだいできればと思いますが。</p>
伊東委員	<p>周りの八幡とか交野とか、ちょっと小さめなところからも、住むのではなくても通ってもらえるような、お兄さん、お姉さんの的に頼れるような、枚方市は枚方市民のためだけじゃなくて、地域が大きくなったような感じで、他のところで足りないものは、「枚方市に来たらあるよ」みたいなのところもあつたら、連携が増えるんじゃないかなと。それも、近隣の中での際立った存在で、大阪の中では、大阪には負けているけど北河内ではちょっ</p>

	と頼れるまち的な何かがあったらいいのではないかなど。
吉川部会長	それは、前回に後閑先生がおっしゃった中核市について、それこそ、大阪東部の中核であるよという話につながると思うんですが。 ちょっと、今日のご意見がなかったと思うんですが、中核市であるということが、総合計画の中で見えてくるような記述、設定が必要なのか、それとも必要でないのかというご議論をいただければと思うんです。前回のときにもそういうことを申し上げたと思うんですが。
角野委員	「大阪に住むんやったら」というのはまだ生きていて、グラフがここにあるから引っ張られるんですが、「住むんやったら」と、上の「あらゆる人にやさしいまち ひらかた」というのも同じようなことを言っている。どっちかというと「やさしいまち」の中身がこの下の副題のところに来て、「枚方」が入るのではないかなと思っていたのです。 だから、「住むんやったら、ひらかた」って単に言っているだけで、何かこうメッセージ性がないですね。ここに中核市としての機能が入っていたら硬すぎるのかもしれないが、上と下と同じようなことを言っているのではないかという気がするんですけどね。
富岡委員	その中核市のところで、僕もあまり具体的にイメージできていないのですが、確かに行政としてのいろんな権限移譲という話は聞くんですけど、他の小さなまちに住むよりも中核市という位置づけに住むことの方がメリットがある、あるいは中核市の方が住みやすかったり、住んでいていろんな意味でメリットがあったりというような、要は行政としての権限移譲ではないところ、行政としての力ではなくて、市民の視点で見たときに、中核市というところで何かアピールできるような内容ってあるんでしょうか。 市民サービスのようなものなのか、あるいは、そういうところで何か広がっていきけるような何かという感じですね。地方の小さいまちに住むよりはやっぱり中核市の方がいいよというような。
吉川部会長	権限移譲だけではなくて、逆に言うと、枚方の中で考えられるのできめ細かい中身にはなるでしょう。
富岡委員	なるほど。だから、実際に中核市になったということでそこに住むと色々な意味できめ細かいサービスが受けられるというか、住みやすいんだというようなところへつながっていくような、そういう表現の仕方。中核市ということは実はそういうことなんだという表現の仕方がないかなど。
吉川部会長	景観行政なんかそうだと思いますけどね。
後閑副部会長	というのは、大阪府と切り離されて、枚方市の中で自分たちの地域に基づいたいろんなことを一元化して、決めて、実現化していけるということはあるのだろうと思います。
富岡委員	実は、市民生活という住む人がイメージできるような伝え方ができればいいかなど。
後閑副部会長	別添資料2で、新しいブランドにつながる主な効果についてということで、資料をいただいておりますよね。それが、健康医療都市と教育文化都市という括りになっている。
吉川部会長	それも、「あらゆる人にやさしいまち」に糾合するといえ、糾合するんですけどね。
富岡委員	僕もそういうキャッチコピーみたいなものが上手くないのですが、中核市になったからこういうことができたんだ、だからみんな来てね、みたいな感じですが、だから住みやすくなったよというようなことが表現されていることってないのかなと思いますね。

吉川部会長	よくわからないけど、たまたまその時期が一致したからという感じかもしれないので、そのへんのところはよくわかりませんが、ある意味では、総合計画の改定と今年度の中核市に移行したところということと、できるなら上手く連携させていただければ。それこそ、ある意味で、中核市になったことは決してブランド力が減退するわけではないと思うので。
谷本委員	中核市になったことではなくて、枚方市さんがなぜ中核市になろうとして中核市になられたかということが本来の目的だと思うので、総合計画の中で「めざすまちの姿」は、なぜ中核市になったかというところを表していればいいと思うんです。中核市になったからどうということではなくて、中核市になることが枚方市のめざす道があるはずなんで、まず、そこをめざすべきではないかと思います。中核市のメリットとか、それがいつまでなのか、さらにまた別の市が出てくるとか、あと、中核市になったゆえのデメリットも出てくる可能性があると思うので、そこではなくて、市のめざす本来のところを書くといいと思います。
吉川部会長	<p>先ほどの5つの基本目標の3番を中心にご議論いただきましたが、もう一つだけ。これは前回、橋本委員の方からお話があったものかなと思うんですけども、4番目の意2-19で「人々が集い、活力があふれるまちづくり」という基本目標のところなんですけど、これでいいかどうかご議論いただいて締めにしたいと思うんですが。</p> <p>先ほど、谷本委員の方から、中心市街地の活性化という話もブレイクダウンした中でということでございましたけれども、「人々が集い」というのが、たぶん、意2-19は「活力」ということで、雇用といいますか、働く場所といいますか、「住む」ということばかりですが、事業者がいなくて働く場がないし、税収も上がらないわけで、そういう観点も必要じゃないかなとおっしゃったような気がしているのですが。</p>
谷本委員	そういう観点の話をさせてもらったのは私で、橋本委員がおっしゃられたのは、たぶん「賑わいばかりではなくて、ちょっと恐い面も出てきているので、人が集い合えるような表現の方が」とおっしゃられたと思うんですが。
吉川部会長	そういう意味ではどうでしょうか。ブレイクダウンしたところの働く云々ということについて。
谷本委員	5つの基本目標の中で「人々が集い、活力があふれるまちづくり」となっていて、これ自体は私は賑わいという言葉ではなくて、活力という言葉でそれも含めてイメージできると思っていて、特に異論はありません。
吉川部会長	前回、活気というよりは活力という方がある意味で働くというイメージが強い。
谷本委員	市民がというか、人がそこで活動しているようなイメージがわくと思いますので、これ自体、「人が集う」という表現で私はいいいと思います。
吉川部会長	はい、わかりました。素案の前半というより、かなり前の方をとばした形で、10ページ以降を中心に議論していただきましたが、時間がきておりますので、これだけは言っておきたいということがございましたら、最後にご意見をいただければと思います。
伊東委員	前半の方の文言なんですけど、全体的に少子高齢化で、子どもが減っていくという前提ですけれども、不妊治療をしている人は結構いるので、それは産みたくない人が増えているわけではないと思うんですね。だから、逆に、中核市として、子どもを増やそうみたいなことを、保健所などで独自でできるのであれば、ちょっと他ではやっていないのではないかと思うので、そういう部分を取り入れてもらったら、他のまちとの違いとかが出ると思いますし、幼・保・小の前の親の段階ということで、そこから教育だったり、健康だった

	<p>りというのは、刷り込みができる一番のチャンスだと思うんですね。</p> <p>だから、もし、そこも活かされるなら、なかなか関わりにくい分野だとは思いますが、踏み込んでみたらどうか。増やさない、子どもが光り輝くことはなかなかできないと思うので、その需要って、人口減少という下り坂で日本全体がすごくマイナスな中で、「枚方は増えていますよ」ということがあったらいいのかなと思います。それも健康のところに入るかもしれませんね。</p>
吉川部会長	<p>「健やか」というところで、健康ですね。</p> <p>そこでは、子どもを持つような世代も含めてということになるかと。何か社会動態の方では子どもは増えているんですしたかね。転入が多いんですしたかね。</p>
事務局	<p>0～4 歳児は転入超過になっています。</p>
吉川部会長	<p>それは、分析としてはどういう意味でしょうか。転入で親世代はあまり増えていないのに、子どもが増えているというのは、おじいちゃん、おばあちゃんのところには預けられているということですか。</p>
事務局	<p>現時点の調査でわかっているのは、大阪市の方も平成 23 年度の社会移動の状況を公表しておりまして、枚方市も大阪市との転入・転出の規模が大きくなっているんですけども、大阪市の方からは 0～4 歳とか、14 歳までの世代が転出超過になっております。ですから、そういった 0～4 歳児については大阪府内に対して大きく転出しているという形になっております。</p> <p>例えば、府内のベッドタウンの吹田とか豊中とか、そういった北摂地域なんかは、特に 0～4 歳児については転入超過になっているという状況にあります。ですから、枚方市のみならず、大阪府内の衛星都市につきましても、そういった子ども世代、それから、親世代、大体 30 歳代になるんですけども、そういった世代については、大阪市の方から衛星都市に転出しているというところがあります。</p>
伊東委員	<p>個人的な意見ですが、なんとなく若いときは便利な大阪市内で住みたいという希望があって、結婚したし、子どももできたしということで、今度は実家のある枚方市に戻ってくるんじゃないか、という感じはします。</p>
富岡委員	<p>ちょっと、伊東委員の意見が本質的だなんて僕が具体的に思っているのは、ある意味、人口減少、少子化と言っていますが、ここは子どもが多いな、出生率が高いなというのは、やっぱり、まちの一つの方向性としては、とても大切だと思う。</p> <p>そのときに、子育てしやすいから単に転入してくる、それも大事ですけども、そこで、例えば、一人っ子が多いところが、子どもが 3 人、2 人、3 人いる家庭が多くなるとか、いわゆるそういう人口増の構造を作っていくことがとても大事で、確かに若いときは利便性というのがありますけれども、子育てのときに大切なのはやっぱり手が足りないということがありますよね。</p> <p>実家がある人ならいいですけど、そうではなくて、それこそ、地域の高齢者との関わりになるけど、地域のおじいちゃん、おばあちゃんたちが実は子育てを支えているとか、高齢者自身も子どもと関わることで生き生きとしてくるとか、まちをあげて、ここは子どもが多い、あるいは 1 世帯当たりの子どもの数が多いということはあると思うのです。たしか、それこそ限定された地域ですけど、そういう地域があったりします。僕の今住んでいるところは京都ですけども、京都の中でも、僕の行くある地域では、1 世帯当たりの子どもの数がかかり多かったですよ。3 人が結構当たり前みたいな保育園だったりもするので。ちょっと離れると、一人っ子がやっぱり多かったですよ、ということではない状況だったりしますよね。実は、そういうまちを広げられるような、あるいはここは安心して子どもが産めるなどか、ここには盛り込めないかもしれないですけど、そういうビジョンを持つというのはとてもいいなと思います。</p>

吉川部会長	ある意味で、それは今日の通奏低音と申しますか、みなさんのご意見の中で、やっぱり、エイジレスと申しますか、各世代という話で、そのときはある意味でお腹の中の世代も考えないといけないという話につながると思うんですね。
吉川部会長	<p>活発なご議論をいただいておりますが大変恐縮なんです、時間が来ておりますので取りまとめということですが、実は前回も議論を進める方ばかりに意識がいて、私自身あまり取りまとめというのが得意ではありません。</p> <p>今日は10ページ以降で、基本構想の最初の方法論みたいところから、あるいはまちの姿というコンセプト、それから基本目標について、大体まんべんなくご議論いただいたと思います。特に今申し上げたように5つの基本目標をもう少しイメージしやすい形に若干手直しをしていただいて、その中には、エイジレスと申しますか、各世代にまたぐ工夫をしていただければというような全体的なご意見であったと理解しています。それで、個々の議論については、コンサルタントの方でおまとめいただいているので、ちょっとご紹介いただければと思いますが。</p>
コンサルタント(都市空間研究所)	(本日の審議内容について報告)
吉川部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>もう若干時間が過ぎてしまいましたので、残り、案件(2)今後の進め方についてということで、これについて事務局の方からご説明をいただきます。</p>
事務局	(資料3「総合計画策定スケジュール(案)」の説明)
吉川部会長	<p>ただ今、事務局の方から説明がありましたが、基本構想については、本日委員の皆様からいただきましたご意見は、新川先生がここにおられますが、来週には第1部会でのご意見を集約させていただくこととなりますので、それをあわせて、事務局で整理、集約いただいて、来月11月17日の全体の審議会基本構想(試案)を確認いただくという運びになるかと思っております。ちょっと、拙速だというようなご批判をいただくかも知れませんが、ある意味で後ろが定まっているというところへんをご勘案いただきまして、こういう進め方ということで事務局の方からお話がありましたが、よろしゅうございますか。</p> <p>はい、ありがとうございます。それでは、3. その他というのが次第にあるかと思っておりますが、何か事務局の方から連絡事項はありますでしょうか。</p>
事務局	<p>本日の資料等につきまして、ご不明な点等ございましたら、恐れ入りますが10月15日の水曜日までに、電話、メール等で事務局の方までご連絡いただきますようお願いいたします。また、本日の資料につきましては、机の上にそのままにしておいていただきましたら、委員専用のバインダーに閉じて保管させていただきます。</p> <p>次に、本日の会議録につきましては、事務局で案を作成しました後に皆様にご確認いただき、その結果を部会長と調整し、決定したものをホームページで公表してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、次回の審議会は11月17日(月)午後6時から、このフロアの向かい側の第3・4委員会室で開催させていただく予定ですので、よろしくお願いいたします。以上です。</p>
吉川部会長	<p>第2回の枚方市総合計画審議会第2部会を終了したいと思います。</p> <p>本日はお疲れ様でございました。</p>